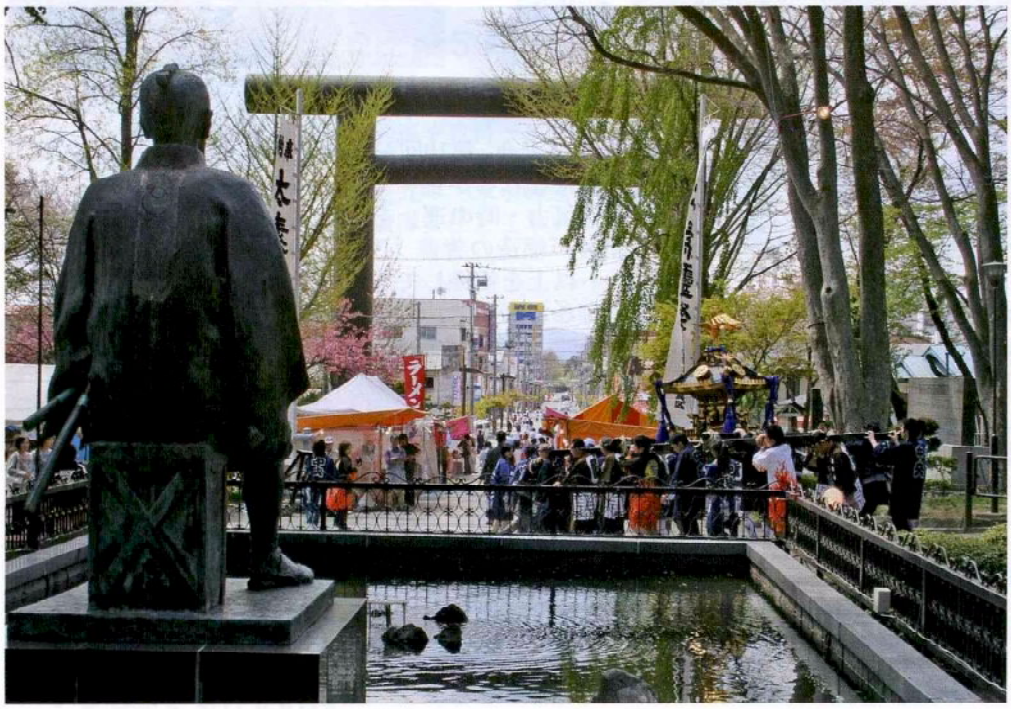
2009.6.1/Vol.57

十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第57号



ふるさとの祭り 太素祭

5月3日(日)～5日(火)稲生川上水151年記念「太素祭」が太素塚で行われました。十和田市、太素顕彰会、十和田商工会議所、㈳十和田市観光協会などの共催で、稲生川の流路沿いを歩く太素ウォークや仮設ステージでの各種イベントを開催し、期間中は多くの人で賑わいました。また、5月3日午後5時から太素祭前夜の式、上水記念日である4日午前10時からは稲生川上水151年記念太素祭式典を新渡戸傳翁の墓所・太素塚墓前で執り行い、先人をしのんで参列者が献花を行いました。4日の式典の後には、まつりびと羈(たつな)の太鼓演奏に迎えられて稲生町中央町内会・わ組の御神輿が太素塚境内を練り歩き、墓前に神輿担ぎ唄「十和田地固め唄」を奉納するなど、祭りの風情を盛り上げていました。娯楽の多様化など、社会の変化とともに地域の祭りが年々消えている今、稲生川の恵みで発展してきた十和田市の歴史を大切に、太素祭は受け継がれています。ゴールデンウィークということで“あの賑わいが懐かしい”と太素祭を見に来る帰省中のかたも毎年多く見うけられます。ふるさとの変わらない風景・太素祭が、これからもこの町に住む人、そして遠く離れて町を思う人にとって、地域の絆を感じられる場で在り続けたいものです。

※写真は今年の太素祭の様子

NEWS

5月3日～5日 太素祭クイズ大会 第10回特別版を開催

クイズで探検！ ニトちゃんとまなぼう!!

～めざせ開拓王！キミは新渡戸傳になれるか!?～

子供たちに人気だった、体力をためす
トンネル工事体験コーナー

稲生川上水151年 国際博物館の日記念・太素祭クイズ大会 第10回記念特別版「クイズで探検！ニトちゃんとまなぼう!!ーめざせ開拓王！きみは新渡戸傳になれるか!?ー」では、「知力」をためす三本木原開拓や新渡戸稲造についてのクイズと「体力」と「気力・時の運」をためす各関門をクリアした参加者に抽選で新渡戸記念館グッズやガイドブック、新渡戸稲造の著書「BUSHIDO」などの賞品をプレゼントしました。参加者530名中373名の方が8ポイント以上を獲得して抽選対象となり、38名の方が最高ポイント（12ポイント）を獲得して「開拓王」に認定されました。ご参加ありがとうございました。

幅広い年齢層が参加されていました

かみしも姿の職員が応援

トンネル工具に挑戦！

2009年太素祭 ニトちゃんクイズ 答えあわせ

みんなわかったかな？

●Q1● 稲生川ができて今年で何年かな？

1．141年　2．151年　3．161年

答え　2

●Q2● 稲生川の名前はお殿様がつけたよ。そのお殿様の名前は？

1．南部利用　2．南部利剛　3．南部利恭

答え　2

●Q3● 稲生川工事の3つの難所といえば、穴堰（トンネル）と京ノ館の深堀と、あと1つは？

1．巫女塚の片堤　2．晴山道の分水口　3．北平山のため池

答え　1

●Q4● 今日は太素祭だけど、これは何を祝うお祭りかな？

1．ゴールデンウィークを祝う祭り
2．新渡戸傳の誕生日を祝う祭り
3．稲生川に水が流れた日を祝う祭り

答え　3

●Q5● 新渡戸稲造の好きな和歌にこんなのがあるよ「見る人の心ごころに まかせおきて 高嶺に澄める 秋の夜の○」○はなに？

1．星　2．花　3．月

答え　3

●Q6● 新渡戸稲造さんが英語で書いた「BUSHIDO」という本は、何について書いた本かな？

1．世界の政治　2．日本の文化や思想　3．アメリカの農業

答え　2

トピックス

新渡戸傳のマイ箸にちなみ エコグッズ「ニトちゃんマイ箸」つくりました

最近エコグッズの中でも「マイ箸」が静かなブームを呼んでいますが、三本木原開拓の祖・新渡戸傳の“夫婦マイ箸”が新渡戸家に残されていることをご存知でしょうか？これにちなみ、今年の太素祭クイズ大会賞品として「ニトちゃんマイ箸」（輪島塗り製）を作りました。大変好評で、今後当地の伝統工芸品「南部裂き織り」のお箸袋とセットにして記念館で実費頒布する予定です。

記念館のロゴとニトちゃんを刷り込んだ「ニトちゃんマイ箸」

新渡戸傳の夫婦マイ箸。男物は黒檀と象牙と銀製、女物は象牙と銀製。二膳一組で入る黒柿製のお箸箱付です

EVENT

開催報告　稲生川上水151年記念ミニ展示

新収蔵資料 初公開

ー廣澤安任旧蔵 明治天皇三本木御巡幸資料ー

平成21年５月１日(金)～５月31日(日)

稲生川上水151年記念ミニ展示「新収蔵資料 初公開－廣澤安任旧蔵明治天皇三本木御巡幸資料－」では、平成21年１月に廣澤中任さん、季任さん、春任さんより寄贈いただいた廣澤安任旧蔵の明治九年三本木御巡幸関係資料を中心に明治天皇御巡幸や廣澤安任と三本木原開拓のかかわり等を紹介しました。

廣澤安任と三本木原開拓 ①
三本木原開拓が導いた斗南の地

このたび当館に寄贈された三本木原開拓に関する資料を、廣澤安任がなぜもっていたのか？そこには深い意味が隠されています。戊辰戦争の終結後、明治２年（1869）版籍奉還が行われ、会津松平家は再興を許されましたが、領地として旧領内猪苗代付近か下北半島かどちらかを選ぶことになりました。その際、廣澤安任は下北への移住を主張していますが、廣澤をしてそう決心させたのには、廣澤と三本木原開拓の出会いがありました。

文久２年（1862）幕府とロシアとの間に国際談判のあった時、会津藩士の中から廣澤安任が抜擢されて随員となり函館に渡っていますが、その途中、三本木に立ち寄り三本木原開拓を指揮監督していた新渡戸傳の長男・十次郎から開拓について詳しく聞いています。当時十次郎は、開拓を稲生川上水による新田開発から地域の総合開発に発展させ、京都を模した碁盤の目状の都市計画を行うなど、先進的な計画を展開していました。十次郎42歳、安任32歳、二人の間に会話が交わされたかどうか記録は残っていませんが、廣澤はこの時の実地見聞が基となり、後にこの地方で会津士族たちの農業授産の方向性を模索することとなりました。廣澤は斗南藩成立の後は少参事として山川浩参事を補佐し施政を展開しました。

<おもな参考文献>『廣澤安任自筆草稿』(廣澤春任 編述)『青森県の歴史発見』(廣澤安正 著・NPO法人青森県福祉サポート協会発行「しるばにあっぷる」連載)『幕末会津志士伝 孤忠録』(廣澤安宅 著)『東北開発の第一鍬』(岡田益男 著・「河北新報」昭和27年～30年連載)『三本木開拓誌』上・中・下(積雪地方農村経済調査所 編)『東巡録』(宮内省 刊) 他

廣澤安任と三本木原開拓 ②
三本木原開拓を陰で支えた廣澤安任

明治４年（1871）廃藩置県となり、斗南藩も青森県に改編され、斗南移住者の多くは全国に散りましたが、廣澤安任はこの地に残り、明治５年（1872）日本初の民間洋式牧場「開牧社」を谷地頭（現三沢市）に開設しました。北辺の地を牧畜で豊かにしようとする廣澤の志は、まさに新渡戸傳、長男・十次郎、そして孫・七郎三代にわたる新渡戸氏の三本木原開拓の志と通ずるものがありました。

それから15年以上の歳月が経ち、新渡戸、廣澤両氏の志が一つとなり三本木原開拓を救う時が訪れました。開拓を受け継ぐ地域の人びとが、三本木共立開墾会社を組織して稲生川の改修、延長、開田等を行っていましたが、明治21年（1888）経営難に陥りました。その時、渋澤栄一（1840－1931）に開拓への援助を勧めたのが、かつて渋澤と親交のあった廣澤安任でした。明治21年３月７日廣澤は渋澤の自宅を訪れ、牧場経営の体験を語るとともに開墾会社の現状を説明し、株式を引き受けて会社を救い、広大な三本木原を拓いて国家の発展に尽くしてほしいと要請、懇願したといいます。ついに渋澤はその株式の一部を引き受け、明治23年（1890）開拓地内に渋澤農場を開設、初代農場長には廣澤安任の甥・廣澤安宅氏が就任しました。

新渡戸傳、十次郎、七郎、廣澤安任、渋澤栄一・・・、連綿と受け継がれた開拓の志が、現在の地域の発展の礎となっています。

開催予定　新渡戸稲造のまなざし シリーズ企画展第一弾

afghan embroidery

刺繍 アフガニスタン

国立民族学博物館に寄託される資料を特別に借入れての企画展です

期間　2009年７月１日(水)～７月31日(金)

場所　十和田市立新渡戸記念館一階展示室

【TAFA宝塚アフガニスタン友好協会 協力】

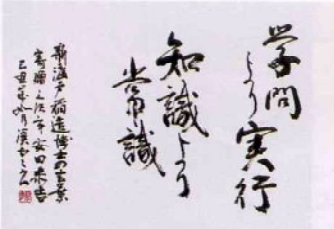
国際人・新渡戸稲造は異文化理解のためには、言葉よりも、直接文化に触れることが一番であり、個人レベルの文化外交が大切と考えた実践者でした。今回ご紹介するアフガニスタンの刺繍から、アフガン女性の豊かな感性と美意識、そして一針一針にこめられた思いを感じ取っていただき、世界平和を考える種子になればと思います。

※企画展は通常観覧料で常設展とともにご覧いただけます（十和田市民は無料）

おしらせ 平成21年度第１回太素顕彰会役員会での協議の結果、市内の太素顕彰会役員ならびに特別会員への「新渡戸記念館だより」の郵送は、十和田市広報に折込んでの配付と重複するため停止することとなりました。ご了承下さい。

mini NEWS

資料の寄贈



三沢市在住の安田恭吉さんから、以前新渡戸稲造の言葉「学問より実行、知識より常識」［三沢市在住の書家・山白義明さん（雅号・渓雲）揮毫］の掛軸を記念館に寄贈いただいていましたが、同様の額１点を館長個人に寄贈いただき、館長室に掲げました。

関連情報

▶酒縁研究会で特別限定酒・十和田花見酒「純米にごり・稲之助」を販売

４月25日(土)から上十三地区の酒販小売店で結成する酒縁研究会（代表 小川洋平さん・事務局長 上山一郎さん）は、昨年５月発売した『稲生川上水150年記念醸造・特別限定酒「稲之助」』の姉妹品の花見酒として「純米にごり・稲之助」限定210本を販売しました。稲之助は新渡戸稲造の幼名で、同研究会では稲造が幼少時代、祖父・傳、父・十次郎が当地で行った三本木原開拓のゆかりから、この幼名を酒名に採用しています。醸造元は十和田市の鳩正宗㈱で、限定酒ラベルの題字「稲之助」は当館館長が揮毫しています。

▶「こども武士道」サイトに新コーナー続々

親子で楽しみながら「武士道」を学ぶサイト『あらまほしけれ こども武士道』に楽しい新企画が続々と掲載されています。アニメーションで道徳のお話しを見ることができる「しばいごや」もオープンし、現在２話を掲載しており、さらに「ダンス」のコーナーでは、ＮＨＫの「からだであそぼ」や「サラリーマンＮＥＯ」などで活躍中のダンスユニット・コンドルズのメンバー藤田善宏さんが振付した“ちょんまげブラザースのダンスこども武士道”のレクチャー付き動画を見ることができます。こども武士道のキャラクター“菊千代くん”の楽しいムービーも４バージョン公開され、各コーナーともさらに充実しています。 ›› こども武士道 http://www.kodomo-bushido.com/

こども武士道キャラクター・菊千代くんのムービーの一場面

▶青森県立郷土館「サムライ・チャンバラ博覧会」へ新渡戸稲造の著書「BUSHIDO」などを貸出

青森県立郷土館の“武”の文化を総合的に紹介する企画展「サムライ・チャンバラ博覧会ー武の実像と虚像ー」［会期：平成21年３月３日(火)～５月６日(水)］へ、当館から新渡戸稲造の著書・英文武士道『BUSHIDOーthe soul of Japanー』と新渡戸稲造肖像写真を展示用に貸出しました。

活動報告

▶こども用パンフレット配布開始

当館に来館する子供のために作成した新渡戸記念館こども用パンフレットの配布を開始しました。地域の小学生が特に三本木原開拓や新渡戸稲造について学習するため、「三本木原開拓の歴史」と「国際人・新渡戸稲造」を中心に解説。当館マスコットキャラクター・ニトちゃんが案内役になり、ニトちゃんクイズなどで理解を深める内容となっています。

▶稲生川ガイドマップ好評につき増刷

平成18年度に稲生川が疏水百選（農林水産省）に認定されたことを記念して制作した稲生川ガイドマップを増刷しました。稲生川の取水口から市街地までの主要流路や道路とともに、主な見学スポットをイラストと写真で紹介しており、分かりやすいと好評です。

▶平成21年度第１回太素顕彰会役員会を開催

４月２日(木)平成21年度第１回太素顕彰会役員会を十和田商工会館５Ｆ会議室で午後１時15分から開催。運営目標「世界に通ずる“わたしたちのローカル博物館”」実現のための中長期計画ならびに平成21年度事業計画及び予算案について審議が行われ、原案通り可決されました。

編集後記

私が十和田に戻ってから早や３年。欧州や東京よりも地元というものは実に好いのです。ちょっとだけ車を走らせれば渓流の女王ヤマメに逢えるし、子供の頃では巡り逢えなかった珍しいヤンマの棲息地にだって辿り着ける。移り行く四季折々の海の幸、山の幸も堪能できる。今まで薄情にも故郷を振り返ることが少ない自分であったけれど、今からの私はこの十和田にて人生を謳歌し、そしてもっともっと新しい発見をしたいと思うのです。雨の日の太素塚で散る山桜の花弁が舞う姿を見たらセンチになってしまいます。（館長代理 新渡戸常憲）

2009/5/3 太素塚の山桜

■ご利用案内
・開館時間：午前9:00～午後4:00
・休 館 日：毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始(12/29～1/3)
・観 覧 料：大学生・一般210円（団体178円）
小・中・高校生52円（団体42円）※団体は20名以上
十和田市民は観覧料が無料となっています

十和田市立 新渡戸記念館
Nitobe Memorial Museum
URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日 2009年６月１日
編集・発行 太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax：0176-23-4430
Email：nitobemm@hi-net.ne.jp
印刷 株式会社 岩間印刷